

藤野 豊 主要研究著作一覧 (資料紹介、書評、辞典執筆項目は煩雑になるので省略)

著書 (単著)

- 『同和政策の歴史』(解放出版社、1984年)
『水平運動の社会思想史的研究』(雄山閣出版、1989年) (博士論文)
『日本ファシズムと医療—ハンセン病をめぐる実証的研究—』(岩波書店、1993年)
『それぞれの選択』(かもがわ出版、1997年)
『日本ファシズムと優生思想』(かもがわ出版、1998年)
『強制された健康—日本ファシズム下の生命と身体—』(吉川弘文館、2000年)
『「いのち」の近代史—「民族浄化」の名のもとに迫害されたハンセン病患者—』(かもがわ出版、2001年)
『被差別部落ゼロ?—近代富山の部落問題』(桂書房、2001年)
『性の国家管理—買売春の近現代史—』(不二出版、2001年)
『厚生省の誕生—医療はファシズムをいかに推進したか—』(かもがわ出版、2003年)
『ハンセン病と戦後民主主義』(岩波書店、2006年)
『忘れられた地域史を歩く』(大月書店、2006年)
『ハンセン病 反省なき国家』(かもがわ出版、2008年)
『戦争とハンセン病』(吉川弘文館、2010年)
『戦後日本の人身売買』(大月書店、2012年)
『孤高のハンセン病医師—小笠原登「日記」を読む—』(六花出版、2016年)
『「黒い羽根」の戦後史—炭鉱合理化政策と失業問題—』(六花出版、2019年)
『強制不妊と優生保護法—」公益 “に奪われたいのち—』(岩波書店、2020年)

著書 (共著)

- 『下妻市史』(茨城県下妻市、1979年)
『米騒動と被差別部落』(黒川みどり、徳永高志と共著 雄山閣出版、1988年)
『部落解放史』中巻(解放出版社、1989年)
『ハンセン病と人権』(解放出版社、1997年)
『ハンセン病と人権』第2版(解放出版社、2000年)
『差別の日本近現代史』(黒川みどりと共著 岩波書店、2015年)
『不安に立つ「時代に抗った念仏者」』(真宗大谷派名古屋教務所、2017年)
『歧視—統合與排他的日本近現代史』(黒川みどりと共著 黄輝進訳 台湾・游擊文化股份有限公司、2017年)
『「家族がハンセン病だった」』(ハンセン病家族訴訟弁護団編 六花出版、2018年)

編著書 (単著)

- 『初期水平運動資料集』(不二出版、1989年)
『近現代日本ハンセン病問題資料集成—戦前編—』全8巻(不二出版、2002年完結)
『近現代日本ハンセン病問題資料集成—戦後編—』全10巻(不二出版、2003年完結)
『近現代日本ハンセン病問題資料集成 補巻』1~5巻、8巻、9巻、11~16巻(不二出版、2007年完結)
『大同保育隊報告』(不二出版、2008年)
『戦後初期人身売買/子ども労働問題資料集成』1~6巻(六花出版、2013年~2014年)

編著書（共著）

- 『近代部落史資料集成』7巻（三一書房、1985年）
『近代部落史資料集成』8巻（三一書房、1985年）
『米騒動—水平社への道のり—』（部落解放研究所、1988年）
『昭和大礼記録資料』（不二出版、1990年）
『歴史のなかの「癩者」』（ゆみる出版、1996年）
『教室から「自由主義史観」を批判する』（かもがわ出版、1997年）
『神奈川の部落史』（不二出版、2007年）
『近現代部落史』（有志舎、2009年）

論文

- 「水平社未組織県における差別撤廃運動」（早稲田大学史学会『史観』101冊、1979年10月）
『大正デモクラシー』と部落問題（『部落問題研究』63輯、1979年10月）
「1910年代の融和運動」（『歴史評論』363号、1980年7月）
「融和団体『同愛会』史論」（『歴史学研究』485号、1980年10月）
「地方融和団体の理論と運動」（東京部落問題研究会『部落問題年報』2号、1980年12月）
「融和運動における統合の理論の成立」（『部落解放研究』26号、1981年6月）
「協調政策の推進」（『近代日本の抵抗と統合』3巻、日本評論社、1982年）
「融和運動史研究をめぐる論点と課題」（『部落問題研究』73輯、1982年11月）
「融和団体『帝国公道会』史論」（『公道・復刻版』別巻、西播地域皮多村文書刊行会、1984年）
「同和行政の歴史」（『講座・差別と人権』2巻、雄山閣出版、1985年）
「1930年代の水平運動」（『民衆運動と差別・女性』、雄山閣出版、1985年）
『差別言動取締法令』制定運動史（『京都部落史研究所紀要』5号、1985年3月）
「水平運動史研究の論点と課題」（『部落解放研究』45号、1985年7月）
「国本社 of 水平運動観」（『部落問題研究』84輯、1985年8月）
『同和对策審議会答申』の史的検証（『同和行政論』V巻、明石書店、1986年）
「留岡幸助と部落問題」（『論集・近代部落問題』、解放出版社、1986年）
「植木俊介・融和教育における日本精神」（『被差別部落と教員』、明石書店、1986年）
「全国水平社の創立とその思想」（『水平社運動史論』、解放出版社、1986年）
「水平運動における戦争協力をめぐる序論」（『同和研究資料』7号、1986年11月）
「融和政策・融和運動史研究の論点と課題」（『部落解放研究』56号、1987年6月）
「関東水平社の思想」（『解放研究』1号、1987年7月）
「全国水平社の創立と浄土真宗信仰」（『京都部落史研究所』8号、1988年3月）
『部落厚生皇民運動』史論（『部落解放研究』60～62号、1988年2～7月）
「融和政策・融和運動史研究の状況」（『部落史研究ハンドブック』、雄山閣出版、1989年）
「序論・近代天皇制下のハンセン病患者」（『民衆史研究』37号、1989年5月）
「ハンセン病対策史における優生主義の台頭」（『帝塚山大学論集』68号、1990年3月）
「日本ファシズム成立期におけるハンセン病患者の解放闘争」（『民衆史研究』39号、1990年5月）
「法律『癩予防ニ関スル件』の成立とキリスト教主義療養所」（『キリスト教史学』44輯、1990年7月）
「戦時下水平運動の研究をめぐる問題点」（『部落解放研究』76号、1990年10月）

「日本ファシズム成立期における『無癩県運動』」（『民衆史研究』40号、1990年11月）
「有馬頼寧と水平運動」（『部落問題研究』109輯、1991年1月）
「改正『癩予防法』の成立と絶対的隔離への道」（『帝塚山論集』71号、1991年2月）
「日本ファシズムと水平運動」（『部落問題研究』116輯、1992年5月）
「『昭和大礼』下の三重県における衛生対策」（『部落解放研究』87号、1992年8月）
「『昭和大礼』下の悠紀・主基地方の民衆」（『部落問題研究』118輯、1992年8月）
「『毒婦物』文芸の社会的背景」（『民衆史研究』44号、1992年4月）
「序論・日本ファシズムと医学」（『民衆史研究会会報』35・36号（1993年5月・11月）
「被差別部落」（『岩波講座日本通史』18巻、岩波書店、1994年）
「『特殊部落』観克復の模索」（『部落問題研究』128輯、1994年4月）
「部落問題と優生思想」（『部落解放研究』100号、1994年10月）
「優生思想と民衆」（『民衆史研究』49号、1995年5月）
「近代日本のキリスト教と優生思想」（『キリスト教史学』49輯、1995年7月）
「日本ファシズムと病者・障害者」（『季刊戦争責任研究』12号、1996年6月）
「日本ファシズムと厚生省の設置」（『年報日本現代史』3号、1997年8月）
「民族衛生政策の成立」（『内務省と国民』、文献出版、1998年）
「日本ファシズムと性病—いわゆる『従軍慰安婦』の前提—」（『季刊戦争責任研究』22号、1998年12月）
「部落問題における婚姻忌避」（『現代思想』27巻2号、1999年2月）
「ファシズム体制下の立山連峰・黒部峡谷」（『富山国際大学紀要』9巻、1999年3月）
「植民地朝鮮におけるハンセン病政策」（『植民地社会事業関係資料集 朝鮮編』別冊、近現代資料刊行会、1999年）
「日本ファシズムと国立公園」（『民衆史研究』58号、1999年11月）
「1938年 富山県の廃娼」（『富山国際大学紀要』10巻、2000年3月）
「横浜市における建国体操の展開」（『市史研究よこはま』12号、2000年3月）
「国民精神総動員運動と結婚改善運動」（富山国際大学『人文社会学部紀要』1巻、2001年3月）
「廃娼と存娼—その相克と協調—」（『大正デモクラシー・天皇制・キリスト教』、新教出版社、2001年）
「日本ファシズムと医療」（『15年戦争と日本の医学医療研究会誌』2巻1号、2001年10月）
「ハンセン病患者への人権侵害の歴史」（『自由と正義』52巻10号、2001年10月）
「ハンセン病と近現代日本」（『ハンセン病—排除・差別・隔離の歴史—』、岩波書店、2001年）
「『無医村』問題の登場」（富山国際大学『人文社会学部紀要』2巻、2002年3月）
「ハンセン病患者」（『日本における差別と人権』、解放出版社、2002年）
「水平社未組織県における部落解放運動史—神奈川県・富山県の場合—」（『近代日本と水平社』、解放出版社、2002年）
「ハンセン病 人権侵害との闘い」（『ブリタニカ国際年鑑』2002年版、ブリタニカ・ジャパン、2002年）
「近現代のハンセン病政策」（『身同』22号、2002年）
「ハンセン病と部落問題の接点」（『部落解放研究』164号、2005年6月）
「旧『南洋群島』のハンセン病政策」（『思想』1012号、2008年8月）
「アジア太平洋戦争とハンセン病」（『季刊戦争責任研究』61号、2008年9月）
「帝国陸軍と保護兵」（『季刊戦争責任研究』69号、2010年9月）
「高校日本史Bにおける戦後史理解への試論—新潟県の地域史学習から見た高度経済成長—」（『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』9号、2011年5月）
「賀川豊彦と『救癩』運動」（賀川豊彦記念松沢資料館編『日本キリスト教史における賀川豊彦』（新教出版社、2011年）

「第 15 回日本癩学会総会における小笠原登一圓周寺所蔵「小笠原登関係文書」の分析（1）－」（『敬和学園大学研究紀要』21号、2012年2月）

「小笠原登とハンセン病患者 1941年—1942年—圓周寺所蔵「小笠原登関係文書」の分析（2）－」（『敬和学園大学研究紀要』22号、2013年2月）

「昭和天皇と炭鉱労働者—戦後初期炭鉱「巡幸」の検討—」（敬和学園大学『人文社会科学研究所年報』11号、2013年5月）

「熊本におけるハンセン病患者骨格標本問題の検証」（『季刊戦争責任研究』81輯、2013年12月）

「小笠原登とハンセン病患者 1943年—1944年—圓周寺所蔵「小笠原登関係文書」の分析（3）－」（『敬和学園大学研究紀要』23号、2014年2月）

「無らい県運動の概要と研究の課題」（無らい県運動研究会編『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会—無らい県運動の研究—』、六花出版、2014年）

「無らい県運動と宗教」（共著 無らい県運動研究会編『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会—無らい県運動の研究—』、六花出版、2014年）

Eugenics and Minorities, Edited by Karen J.Schaffner "Eugenics in Japan" Kyusyu University Press 2014

Eugenics and Hansen's Disease Patients, Edited by Karen J.Schaffner "Eugenics in Japan" Kyusyu University Press 2014

「戦後日本の公娼制度廃止における警察の認識—内務省警保局保安係「公娼制度廃止関係起案綴」の分析—」（敬和学園大学『人文社会科学研究所年報』12号、2014年5月）

「小笠原登のハンセン病絶対隔離政策とのたたかひ—圓周寺所蔵「小笠原登関係文書」の分析（4）－」（『敬和学園大学研究紀要』24号、2015年2月）

「炭鉱合理化政策の開始と失業問題」（敬和学園大学『人文社会科学研究所年報』13号、2015年6月）

「炭鉱合理化政策の開始と失業問題・続」（敬和学園大学『人文社会科学研究所年報』14号、2016年6月）

「映像と音声に記録された`炭鉱合理化政策下の失業問題、」（『アリーナ』19号、2016年11月）

「石炭鉱業合理化臨時措置法の成立」（敬和学園大学『人文社会科学研究所年報』15号、2017年6月）

評論

「部落問題における国家責任 1 地対協路線への批判」（『部落解放』257号、1987年2月）

「部落問題における国家責任 2 地対協路線への批判」（『部落解放』260号、1987年4月）

「部落問題における国家責任 3 「解放令」をめぐる国家責任論」（『部落解放』261号、1987年5月）

「部落問題における国家責任 4 「大日本帝国憲法」と平等権」（『部落解放』265号、1987年8月）

「部落問題における国家責任 5 部落改善運動の勃興と国家責任論の後退」（『部落解放』266号、1987年9月）

「部落問題における国家責任 6 部落改善政策と国家責任論」（『部落解放』268号、1987年11月）

「部落解放運動史における米騒動」（『部落解放』280号、1988年7月）

「部落問題における国家責任 7 細民部落改善協議会と国家責任論」（『部落解放』282号、1988年9月）

「部落問題における国家責任 8 「同情融和」論と国家責任論」（『部落解放』289号、1989年2月）

「部落問題における国家責任 9 全国水平社創立と国家責任論」（『部落解放』301号、1989年11月）

「昭和大礼」と部落問題」（『部落解放』314号、1990年8月）

「部落問題における国家責任 10 恐慌下の国家責任論」（『部落解放』325号、1991年5月）

「全国水平社の戦争協力における2潮流」（『部落解放』393号、1995年8月）

「自由主義史観」という差別肯定史観」（『部落解放』422号、1997年6月）

「ハンセン病をめぐる社会の意識は変わったか」(『部落解放』436号、1998年4月)
「ハンセン病患者排除の構造」(『飛礫』25号、1999年12月)
「『三国人』はどう使われてきたか」(『部落解放』471号、2000年7月)
「『ケガレ=差別の本質』論の問題性」(『部落解放』484号、2001年4月)
「ハンセン病 問われる国策としての隔離」(『世界』691号、2001年8月)
「ハンセン病患者への人権侵害の歴史」(『自由と正義』52巻10号、2001年10月)
「『法の執行』が生んだ『恐怖宣伝』ハンセン病患者の近現代」(『部落解放』495号、2002年1月)
「アイヌ民族への医療・衛生調査の差別性」(『飛礫』35号、2002年6月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 1」(『飛礫』37号、2003年1月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 2」(『飛礫』37号、2003年4月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 3」(『飛礫』37号、2003年7月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 4」(『飛礫』37号、2003年10月)
「歴史の空白 ハンセン病隔離強化の真相とは何か」(『世界』718号、2003年9月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 5」(『飛礫』37号、2004年1月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 6」(『飛礫』38号、2004年4月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 7」(『飛礫』39号、2004年7月)
「地域から国家を凝視せよ たたかう歴史学の構築 8」(『飛礫』40号、2004年10月)
「『特殊部落調附頼村調』の意味するもの」(『部落解放』535号、2004年6月)
「差別の百年を問う」(『部落解放なら』22号、2004年12月)
「差別と隔離の百年を問う」(『部落解放』544号、2005年)
「ハンセン病と天皇制 1」(『飛礫』45号、2005年1月)
「暴力と非暴力の記憶」(『サルボダヤ』45巻2・3合併号、2005年3月)
「ハンセン病と天皇制 2」(『飛礫』46号、2005年4月)
「ハンセン病と天皇制 3」(『飛礫』47号、2005年7月)
「ハンセン病問題に関する検証会議『最終報告書』」(『福祉のひろば』430号、2005年8月)
「ハンセン病差別と部落差別」(『じんけん』295号、2005年11月)
「『いのち』の近代史を振り返る」(『社会臨床雑誌』13巻3号、2006年3月)
「日本支配下パラオでのハンセン病患者虐殺」(『部落解放』583号、2007年6月)
「『神奈川の部落史』を編集して」(『部落解放』595号、2008年3月)
「北京オリンピック委員会の入国禁止措置問題を考える」(『社会臨床雑誌』16巻3号、2009年3月)
「戦争が促した隔離政策」(『にいがたの教育情報』120号、2016年4月)
「ハンセン病患者『特別法廷』 最高裁はなぜ違憲判断を避けたのか」(『世界』884号、2016年7月)
「強制不妊手術の検証に向けて 国から独立した第三者機関設置の必要」(『新聞研究』805号、2018年8月)
「『公益』に奪われた人権 日本国憲法と優生保護法」(『世界』914号、2018年10月)
「優生保護法と人権」(『ブリタニカ国際年鑑』2019年版、ブリタニカ・ジャパン、2019年5月)

新聞署名論文

「告発された国家犯罪」(『東京新聞』1998年8月26日)
「判決を読んで」(『熊本日日新聞』2001年5月12日)
「ハンセン病訴訟判決に寄せて」(『南日本新聞』2001年5月12日)

「ハンセン病国家賠償訴訟の判決を読んで」（『東京新聞』2001年5月15日）
「ハンセン病訴訟控訴断念に寄せて」（『南日本新聞』2001年5月24日）
「ハンセン病判決に喜び 研究支えてくれた元患者」（『北日本新聞』2001年8月7日）
「逃げたら学問終わり これからが私の闘い」（『ジャーナリスト』522号、2001年9月25日）
「偏見解消 社会の責務」（『南日本新聞』2001年12月16日）
「ハンセン病訴訟和解合意 名誉回復、大きな課題」（『南日本新聞』2001年12月28日）
「読書ライフ」（『北日本新聞』2002年10月13日）
「動きだしたハンセン病検証会議」（『新潟日報』2002年11月22日）
「ハンセン病 進まぬ検証」（『読売新聞』2003年6月6日）
「ハンセン病隔離の歴史」（『聖教新聞』2003年9月4日）
「ハンセン病問題と部落問題の接点」（『熊本日日新聞』2004年7月10日）
「ハンセン病と部落問題」（『南日本新聞』2005年3月17日）
「ハンセン病 最終報告書が語るもの」（『聖教新聞』2005年3月31日）
「植民地下の人権侵害」（『東京新聞』2005年10月31日）
「国境を越えた人権侵害」（『聖教新聞』2006年2月23日、3月9日）
「日本軍の虐殺が判明 南洋のハンセン病」（『沖縄タイムス』2007年4月9日）
「国の加害責任隠した資料館」（『毎日新聞』2008年2月17日）
「「無癩県運動」の再検討」（『聖教新聞』2012年8月7日）
「「いのち・愛・人権」柏崎展に寄せて」（『新潟日報』2012年10月14日）
「ハンセン病国賠訴訟熊本地裁判決から12年」（『熊本日日新聞』2013年5月11日）
「炭鉱の街を歩いて」（『聖教新聞』2015年2月5日）
「熊本大文学部長小松裕さんを悼む」（『熊本日日新聞』2015年4月1日）
「「いのち・愛・人権」村上展に寄せて」（『新潟日報』2015年11月20日）
「孤高のハンセン病医師の記録」（『聖教新聞』2015年2月18日）
「小笠原登の日記を読む」（『朝日新聞』名古屋本社版、2016年3月9日）
「炭鉱のまちを歩く」（『聖教新聞』2017年4月6日～10月5日 21回連載）
「「国益」盾に人権奪う」（『新潟日報』2017年6月25日）
「優生保護法が奪った人権」（『聖教新聞』2019年4月25日）

新聞インタビュー記事

「けさの人」（『北日本新聞』2001年5月25日）
「この人に聞く」（『朝日新聞』富山版 2001年6月8日）
「ハンセン病問題 なぜ差別や偏見？」（『北陸中日新聞』富山版 2001年8月15日）
「たたかう歴史学」（『図書新聞』2558号、2001年11月17日）
「人権侵害の真相究明」（『北日本新聞』2002年5月24日）
「ひと模様」（『読売新聞』富山版 2002年7月4日）
「人いろ色」（『北陸中日新聞』2002年10月6日）
「人権問題研究に体張る」（『北日本新聞』2004年10月4日）
「ハンセン病問題進む検証 得られるか過ちの「教訓」」（『信濃毎日新聞』2005年1月19日）
「けさの人」（『北日本新聞』2005年2月8日）

「ハンセン病市民学会 熊本で5月発足」(『熊本日日新聞』2005年3月21日)
「日曜インタビュー」(『毎日新聞』富山版 2005年4月3日)
「人権や差別問題がテーマ」(『北日本新聞』2005年5月9日)
「女の新聞」(『クロワッサン』2005年6月25日号)
「差別は社会の病」(『北日本新聞』2006年5月11日)
「ひと」(『毎日新聞』2006年5月15日)
「夢迫人」(『北陸中日新聞』富山版 2006年7月2日)
「南洋でも強制隔離か」(『北日本新聞』2006年12月13日)
「聞きたい」(『西日本新聞』2005年7月15日)
「南洋・パラオハンセン病療養所 元患者が語る実態」(『東京新聞』2007年3月30日)
「人物語」(『読売新聞』2007年10月21日)
「聞きたい」(『西日本新聞』2009年10月9日)
「ハンセン病問題 医療、人権アジアに課題」(『新潟日報』2016年6月8日)
「潮流 時流 インタビュー」(『新潟日報』2018年3月2日)
「第三者委で検証を」(『毎日新聞』2018年5月4日)